

2024年2月17日(土)に日本医療マネジメント学会第16回兵庫支部学術集會を2年ぶりに対面形式でホテルヒューイット



会場風景

ト甲子園にて開催させていただきました。多数の演題をご応募いただき、特別講演として阪急阪神ホールディングス株式会社代表取締役会長兼グループCEOの角和夫氏より「サステナブルな社会の実現に向けて」、教育講演として大阪大学大学院医学系研究科感染制御学教授の忽那賢志先生より「COVID-19後の感染対策」、千里金蘭大学栄養学部栄養学科教授の井上善文先生より「栄養管理とリスクマネジメント」についてご講演いただきました。また要望演題として「パンデミック感染の遺産」10演題と「働き方改革の工夫と生産性」18演題、一般演題として115演題の発表があり、参加者計444名と盛況裡に無事学術集會を終えることができました。

本学術集會で得られたメッセージが医療現場に反映されれば幸甚です。

開催にあたってご支援ご協力くださった世話人の皆様をはじめ、関係各位の皆様には、心より御礼申し上げます。開催のご報告とさせていただきます。

第23回長崎支部学術集會

学術集會会長：日本赤十字社長崎原爆病院院長
谷口英樹

2024年2月17日(土)に日本赤十字社長崎原爆病院2階あじさいホールにおきまして第23回長崎県支部学術集會を開催しました。今回は「医療の質向上と働き方改革」をテーマに、特別講演に福崎博孝先生(弁護士法人ふくざき法律事務所)をお招きして「人生の最終段階における医療行為とインフォームド・コンセント(IC)、(ICの新たな展開[ACP・SDM]とガイドライン)」のご講演を賜りました。また、「医療の質向上 - 各施設の取り組み-」と題してパネルディスカッションを行い、5名の先生方に活発な議論を行っていただきました。一般演題は23題の発表があり、様々な質疑応答が交わされていました。

今回の学術集會はコロナのパンデミック以降、久しぶりの現地のみの開催となりましたが、85名の参加をいただき盛會のうちに終了することができました。

本学術集會を開催するにあたり、ご支援ご協力を賜りました関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

本学術集會を開催するにあたり、ご支援ご協力を賜りました関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

第24回東京支部学術集會

学術集會会長：国立病院機構東京医療センター院長
新木一弘

東京支部学術集會は、世田谷区にある独立行政法人国立病院機構本部講堂において、コロナが落ち着くのを期待し、年度末の2024年2月18日(日)に開催することとし、準備を進めてきました。東京医療センターでの開催は、2012年に当時の大島久二副院長が第12回東京支部学術集會を開催して以来12年ぶりとなります。当日は、心配された降雪等もなく、穏やかな天気のもとで開催できました。

さて、12年前に比べますと、新型コロナウイルスの蔓延、少子高齢化のますますの進行、働き方改革の本格実施、地域医療計画の進展、人材の不足、社会の様々な格差による健康への影響など、医療を取り巻く社会経済環境は大きく変化しています。

このような状況では医療機関を訪れる患者に治療を行うだけでなく、その根本的な予防を通じて、限られた保健医療資源のより有効な活用も我々医療者自ら考えていくことが必要と考えます。このため、今回は、「地域からの健康づくりを支える医療」をテーマに、千葉大学の近藤克則教授に「健康まちづくりを支える医療」、国際医療福祉大学池田俊也教授に「日本の医療のどこが問題なのか?」、東京医療センター本田美和子医長に「『社会インフラとしてのケア』-優しさを伝える技術：ユマニチュード-」、厚生労働省医師等医療従事者働き方改革推進室藤川葵室長補佐に「医師の働き方改革」の4題のご講演いただきました。各講演とも大変素晴らしく、参加者の方から「支部学術集會にはもったいないくらい」とのお褒めの言葉を頂きました。また、一般口演も「看護業務」、「医療安全・医療の質」、「病院経営・地域連携・医療情報・クリティカルパス」の3セッションに19の演題発表があり、こちらも盛況でした。有意義な学術集會になったと、講演者、発表者等関係各位に感謝している次第です。

最後に、ご協力・ご指導いただいた、皆様に改めて御礼申し上げます。第24回東京支部学術集會の報告とさせていただきます。